

屋外広告物の^{げんさい}減殺効果

寺井 剛 敏

はじめに

わが国の屋外広告の定義をまとめると、狭義と広義の2つになる。狭義では一般に「屋外広告」といい、「家屋や社屋の外に継続して掲出される広告」をいう。アウトドアというのは単に建物の外側というのではなく、屋外にあって公衆の目や耳に到達するところと解釈できる。このような場所に掲出される屋外広告には、広告塔、ポスターボード、ビル壁面広告、突き出し広告、懸垂幕、電柱広告、大型ビジョンなどがある。

広義ではOOH (Out Of Home) といい、「住まいの外で継続的に掲出されるあらゆる広告」をいう。これには、上記屋外広告に加えて、交通広告(中吊り、額面、駅貼り、サインボード)、施設広告(スタジアム広告)、店頭店内広告(POP広告)、ストリート・ファニチャー(バスシェルター、バス・ベンチ、ニューススタンド)などが含まれる。これは住まいから一歩外に出るときに接触する広告を指しており、駅や空港、スポーツ施設、店などの内部に掲出されるものも含まれる¹。

このように屋外広告物といっても色々な種類があり、さまざまな大きさや目的で掲出されており、景観に配慮された広告物もあれば、企業等のアピールを全面に打ち出した広告も現状では多く見られる。高度成長期では都市の反映の象徴だった屋外広告物も近年では景観への配慮の見地から、デザインや色など景観に配慮されていないものは敬遠される傾向にあり、広告主も費用対効果から掲出を控える企業も多くなってきた。中には景観や、環境への配慮を打ち出し企業イメージを向上させる効果を期待して掲出する企業も現れているのも事実である。

ここでは、屋外広告と広告主の関係について語る

のではなく、屋外広告物が複数掲出された結果、本来伝わる情報が伝わらない、わかりにくいなど弊害が出ている。そのような現状をふまえ、金沢市景観政策課からの依頼業務として、金沢市内の交差点に設置されている、野立看板の調査と新しいデザイン提案を求められた内容について、2007年から継続している研究報告の中間報告を制作した画像を中心に行う。

野立看板の問題点と減殺効果

金沢市内の交差点に限らず交差点と言われる場所には、色々な種類の看板が設置されている、交差点は進路が交錯する場所であり、車や自転車、人も信号待ちで待機する場所でもある。広告を掲出したい企業からすれば効果的場所だと考えられる一方で、景観上重要な場所である。

このような沿道や交差点に掲出される屋外広告物のことを「野立看板(のだてかんばん)」と業界用語でよんでいる。

野立看板の多くは土地の所有者が屋外広告を仲介する業者等へ貸し出し、仲介業者は屋外広告を掲出したい企業を集め、野立看板を設置する。同じ土地に複数の業者が入ってくると、野立看板の形状や色なども統一されず、業者ごとに製作した看板が同じ土地に乱立することになる。

今回モデルにした交差点でも複数の野立看板が設置されており、形状(縦型、横型)、色、掲出内容のレイアウト、文字などがバラバラで統一されていないため、せっかく誘導や企業名の認知などが目的であるはずが、先に述べた要因が原因となりお互いが打ち消しあってしまう、本来の効果がなくなってしまう、そのような現象を「減殺効果」という。

新デザイン案の検討経過



現状の交差点（交差点は無作為に選定した）
・高低差、色、書体が混ざって見えにくい



1) 現状から看板面をすべて消去



2) 立看板下面揃え
・下面を揃えるだけでもすっきりする



3) 立看板下面比率揃え
・比率も揃えるとバランスも良くなる



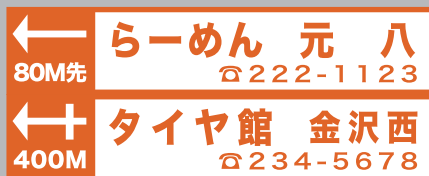
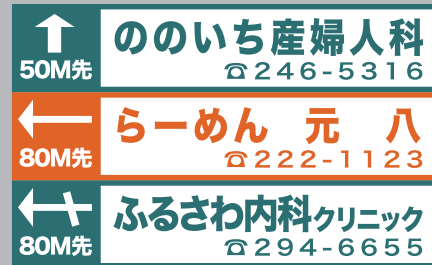
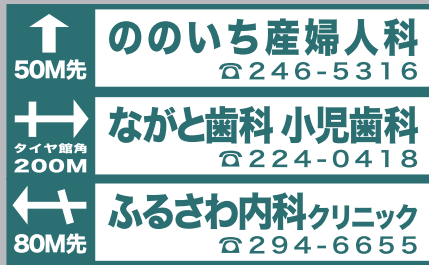
4) 横看板下面揃え
・縦型同様、下面を揃えるだけでもすっきりする



5) 横看板下面比率揃え
・縦型同様、比率も揃えるとバランスも良くなる

新デザイン提案 B

2色にすることでわかりやすく、すっきりとさせた。フチを囲い、矢印部分がアイコンの代わりとなるデザインで遠くから見てもわかりやすい。



医療系がミドリ、その他がオレンジ

計 10㎡ (3.3㎡ x3)

新デザイン提案B

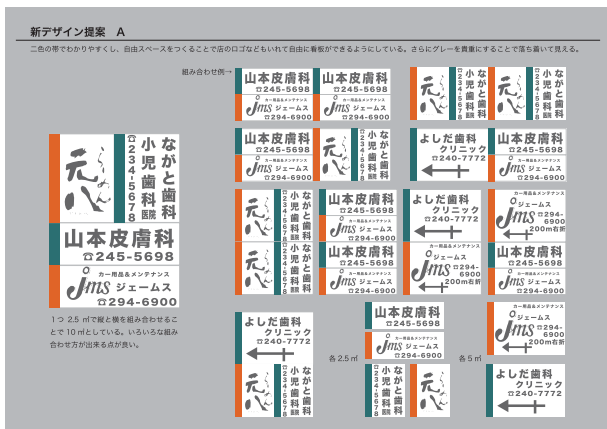


2色に限定しフチを囲い、矢印部分がアイコンの代わりとして視認性を高めた

研究の方向性

今回は2カ所の交差点をシミュレーション候補地として新しいデザイン案について検討を行った。候補地の交差点まで出向いて、現状看板のサイズ、基数などを調査し画像で記録して回った。現状設置されている看板の周囲の状況なども合わせて記録し検証する際の参考とした。

検証では広告物の面積を10㎡以下、高さ4m、色数も制限、レイアウトや文字についても統一するなど条件を設定し、協力してくれた学生3名のアイデアを協議しながら、現状の状態から新デザイン案までを金沢市景観政策課の方々々と調整し進めていった。



新デザイン提案 A



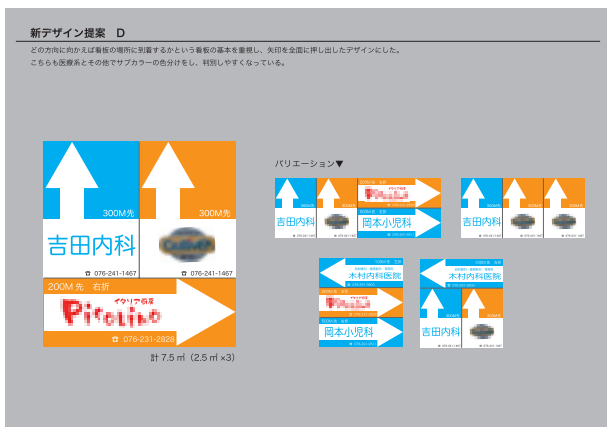
2色の帯を利用して、看板の境界をわかりやすくし、レイアウトに自由度をもたせ視認性を高めた案



新デザイン提案 C



地図、告知など必要な情報をフォーマット化することでレイアウトの統一を図った案



新デザイン提案 D



看板の基本情報である方向性を重視し、矢印を全面に押し出した案



新デザイン提案E



余白と文字の大きさ、フォントを事前に調整したフォーマットの中に配置し、統一感を持たせた案

今回行ったデザイン案の経過を、学内デザイン科学生有志102名に対してアンケートを行った。

・アンケートの結果から、看板の高さ、大きさ、色相を合わせる必要があるとの意見が多かった。

2008.02.08 102人

よく使う移動手段

バス	自転車	原付	バイク	自動車
36	68	9	2	17

(1) 金沢市は景観に配慮していると思いますか？

そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない
15	55	12	18	1



中心地以外には配慮されていないと感じる(少し) 街にゴミが少ない(少し) 茶屋街は配慮されていると思う(あまり) ぎょうぎょうしていない印象(そう思う) 標識の大きさ等の見直しと修正が行われたから(少し) 自分の両面ではどういったところに気付かない(どちらでも) 配慮されているところと、そうでないところがある(少し) 観光地は配慮されていると思う(少し)

特に「美しい」とは思わない(あまり) 配慮しているのかしていかないのかよく解らない(あまり) 宗像の統一感がない(どちらでも) 寒天の文書を見て思った(そう思う) 古い建物が壊されにくいと思う(あまり) 電柱・電線が汚らしく見えることがある(あまり) 市街地で電線が空中敷設されている(少し) 京都を意識し過ぎている。もっと「金沢らしさ」を(少し)

(2) 現状の看板について

1. 大きさ：現状の看板はどれも面積が大きく圧迫感があります。それによって周りの景観に悪影響を及ぼすと思いますか？

そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない
29	25	19	27	2



景観に必要な交差点とは思わない(どちらでも) 場所によっては景観を悪くすると思う(少し) 大きな看板が目立つが、景観上よくない(そう思う) 景色を見せたい(少し) もっと大きくても良い(あまり) 大きくても邪魔が大きい(どちらでも) 少々大きいが、看板としての役割を果たしている(あまり) そんなに大きくない(どちらでも) とりあえずタテは良くないと思う(少し)

小さくなくても景観への影響は変わらない(少し) 住宅地なら大きくても良い(あまり) 車に乗っている人には良くも、歩行者には不愉快(そう思う) そのままで良い場所ではない(どちらでも) 交差点を通る度「うるさい」と感じることが多い(そう思う) 田舎らしくて好き(あまり) 車内からの認知には必要な大きさだと思う(あまり) サイズは統一した方が良い

2. 色：現状では色の規制がなく、目立つ色を使う看板が多くあります。それによって景観に悪影響を及ぼしていると思いますか？

そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない
17	32	17	19	4



強い色でも見ないから(あまり) まどまりが必要(少し) センスの無いロゴや色の店屋は環境を損ねる(どちらでも) 色の基準を決めることは市のイメージにつながる(そう思う)

使っている色が安い(少し) 組み合わせが悪い(少し) 観光地では規制した方が良い(あまり) 赤や黄等の強い色が目立ちあまりいい気はしない(そう思う)

汚かったり周りとあまりに合わない色だと悪影響(そう思う) 派手な色が必要視認性を損ねる(どちらでも) 逆にもっとこちゃこちゃしてほしい(中途半端) 色を乱立すると結局目立たない(そう思う) 全体の印象を落とす方が悪い 並んだ時に見辛い(少し)

色がありすぎて風景が汚く見える(そう思う) 色はあれくらいでいい(あまり) どれも同じに見える(そう思う) 景色と色が合っていない(そう思う) 場所による(どちらでも) ガチャガチャして気持ち悪い(悪影響を及ぼしている(少し))

3. 数：現状では1つの交差点に多くの看板が設置されています。それによって看板の広告効果が下がっていると思いますか？

そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない
34	27	24	15	1



こういうもんだらうという印象(あまり) たくさんあると1つ1つ効かない(そう思う) そんなに気にならない(そう思わない) どれも目立つという余り、逆に目立たない(そう思う) もっとバラバラに配置しないとちゃんと見えない(そう思う) どれを見たら良いかわからない(そう思う) 数が多すぎると、逆に看板を見ない(そう思う) 数が多すぎると、逆に看板を見ない(そう思う) 数が多いと大きいのが目立つ(そう思う) 悪循環(少し)

判別はできる(どちらでも) この程度なら大丈夫(あまり) 広告が林立している1つ1つの効果は下がる(そう思う) 多かっただけでいい(少し) 少ないものの方がいい(そう思う) 統一感があれば今の数でも良い(そう思う) もっとバラバラに配置しないとちゃんと見えない(そう思う) 数が少ない方が効果があるとは思わない(どちらでも) 数が多ければ多いほど空が狭くなる(そう思う) 効果というより見た目がうるさい(少し)

4. 統一感：現状では施工業者が独自に判断して製作することが多く、看板が乱立する原因となっています。規制して看板に統一感を持たせたほうが良いと思いますか？

そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない
43	28	12	12	7



下位位置は損なう方が悪い(少し) 目立つ看板がなくなる(思わない) 店の個性が出にくい(あまり) 面積損なうべき(そう思う) もう少し規律が欲しい(そう思う) 横断線が好印象(少し) まとめてしまったら良い(思わない) 一定の条件があればいい(どちらでも) 品がなくて乱雑な印象は良くない(そう思う) 金沢の街のイメージ的に統一感があって良かった方がよい(そう思う)

外見の形や色が同じだったら良いと思う(そう思う) 特に色を統一すべき(そう思う) 個性がある方が看板として分かりやすい(思わない) 今よりマシになって欲しい(少し) 統一感があると圧迫感を感じる(少し) デザインが似てきたら看板の意味が無い(思わない) きっとあまり変わらない(少し) 高さやトーンを揃えるべき(そう思う)

(3) 新デザインの中から良いと思うもの2つに○をつけてください。

A	B	C	D	E
15	47	58	40	32



(4) その他、何かありましたらなるべくお書きください。

歩道をもっと広く欲しい。看板そのものがなくなってしまえばいいのに。20年間金沢に住んでいるが、特別色規制や大きさ等を定める必要はないと思う。より独自の取組のため、無理に規制せずに、新しい方向性を模索して欲しい。デザインを固定し過ぎると、本来の看板の目的からずれそう。昔の意図を思い出さなければならぬ。フォーマット・大きさを揃えるだけで綺麗に見えた。

金沢市がどうしたいかわからない。広告を整理したいのが、目立たせたいのが、はっきりしてほしい。景観のことか、最近デザインが重視されていくアート系のイベントが増えたいと思う。景観条例は全国的に注目度が高いので、金沢市が全国的にリードできるような前例のない大胆なデザインを。色々規制をかけるのは感心しない。石引の交差点の看板が5分以上ずれてるのを見て欲しい。

新デザイン提案について

現状の金沢市屋外広告物条例は、一敷地内の広告物の面積合計を30㎡以下にする規制しかなく、広告物も形状や数量、設置位置に規制がない状態である。今後は面積などを制限する方向で条例を調整中であり、提案させて頂いた、AからEまでの5案についても新しい条例の参考になるように、デザイン案の提案を行うだけでなく、現状の状態から看板面の整理やサイズの検討など、景観政策課担当者の方々からも意見を頂き、一つひとつの案について協議、修正を何度も行いながら進めていった。

一方的なデザイン案の提案では意味がなく、条例や規制を検討する担当にも理解して頂くことも重要なポイントであると考えて進めていった。

今回、新デザインを提案するにあたり、一般的に広くデザインに求められる基本的条件として言われる、3つの条件に屋外広告物の場合は、景観性を加えた4つの条件として考えるのが妥当だと思われる。

- (1) 機能性（使いやすさ、伝わりやすさ）
- (2) 審美性（美しさ）
- (3) 経済性（合理的なものづくり）
- (4) 景観性（景観の質的向上への寄与など）²

今回提案させて頂いた、AからEまでの5案については、上記4つのポイントを全て取り入れているというより、提案ごとにメリハリをつけてデザインを検討し調整していった。

下記は、今回の新デザイン案の提案に際し、心がけた内容を記載した。

- (1) 機能性については、文字、色の統一を行い、あまり複数の色や文字の種類が多いと伝えたい情報が伝わりにくくなる、そのためできるだけ制限し、わかりやすさを心がけた。

(2) 審美性はレイアウトが重要であるため、ある程度の規制は必要だと思うが、あまり事前に表示内容（配置など）を規制してしまうと、広告主が希望する表示内容によっては対応がしにくくなってしまう可能性があるため、柔軟性を持たせるように検討を行った。

(3) 経済性については、現状製作されている仕様を前提に提案を検討した。

(4) 広告物が設置される背景や、周囲の環境などと調和しているかを念頭においた。

そして上記4つの条件に加え、今回色々な調査を行った経験からもう1点加える必要があると思うのは、倫理性も重要な条件だといえる。自分だけが目立てば良いという自分勝手な表記は、全体のバランスを崩し、結果として広告面の効果がなくなってしまい、そのような表示はかえって印象を悪くしてしまうことを、掲出する企業は理解するべきである。

最近では景観に配慮した色遣いやデザイン変更などを前向きに取り組む企業も増えてきており、企業イメージ向上に貢献している。

今回検討した新しいデザイン案の提案は、金沢市長へもプレゼンテーションを行い、学生の新しい視点での提案についても理解を頂き、今後も継続して景観政策課と協力して、その他の検証も進めるように依頼を受けた。

今後の展開について

屋外広告と景観政策は、自治体や業界、市民なども含め色々な意見や視点からこれまでも論議されている。論議の中にはもっと規制すればいいとか、なくせばいいという過激な意見もあれば、賑わいがある、街の活性化につながるという意見もあり、立場によって色々な意見があり、金沢のように古くからある歴史的景観と近代的な新しい景観の両方が混在する都市の場合は、古さと新しさ双方のバランスが

難しい。

今後も野立て看板以外にも、独立看板の高さについての検証や、その他の看板等についても検証を続けていく予定があり、研究は継続する予定である。

色々な検証を進めていく上で考えたことは、都市には遊びが必要だと感じたことである。遊びといっても、子供が遊ぶ遊びではなく車のステアリングに遊びがあるように、都市の中にも遊びが必要だと感じている。景観を考えていく上でも規制や条例ばかりが先行してしまうと窮屈な印象を与えてしまい、せっかく良かれと検討した規制や条例も、本来の目的とは違う方向になってしまう、そうならないためにも遊びをもったバランスが都市の中には大切なことだと思う。また、バランスをどのようにするかについて、自分自身もバランス感覚を持たなければならないと考えている。

今後は海外の事例等も積極的に調査、検証を行い自分自身の課題として取組んでいきたいと考えている。

※今回モデルとした交差点に掲出されている、野立看板や掲出されている名称については、現状に近い状態を理解して頂きたいため、現状表記のまま掲載した。あくまでも無作為に選択したことを付け加えておく。

註

- 1 『屋外広告の知識 第2巻 デザイン編』
第3次改訂版（株式会社ぎょうせい）2項
- 2 『屋外広告の知識 第2巻 デザイン編』
第3次改訂版（株式会社ぎょうせい）90項

協力

- ・金沢市役所景観政策課
- ・金沢美術工芸大学視覚デザイン専攻
西川俊三、水野愛美、吉田園子

アンケート協力

- ・金沢美術工芸大学デザイン科学生有志

参考文献

- ・『屋外広告の知識 第2巻 デザイン編』
第3次改訂版（株式会社ぎょうせい）
- ・『日本の街を美しくする』
土田旭+都市景観研究会編著
（株式会社学芸出版社）

取材記事掲載

- ・北国新聞 2007年9月27日
- ・北国新聞 2007年12月20日

（てらい・たけとし 視覚デザイン／サイン計画）
（2008年10月31日受理）